



One another one

内的相互

冬木  
遼太郎  
個展

Fuyuki Ryotaro

2019 1 / 12 [土] — 1 / 27 [日]

12:00-17:00 土日祝は 19:00 まで  
月・木曜日休廊



GALLERY  
SUUJIN

ギャラリー崇仁 元崇仁小学校内  
| 京都市下京区川端町16 | 京都駅より徒歩9分 |

主催：京都市立芸術大学 <http://www.kcua.ac.jp/>  
企画支援：京都市立芸術大学キャリアデザインセンター  
問合せ先：京都市立芸術大学 事務局 総務広報課 TEL 075-334-2200  
協力：大阪府立江之子島文化芸術創造センター 助成：アーツサポート関西

enokijima creates osaka  
**enoco**

 Arts Support Kansai

# One another one

## 内的相互

「行為をいかに接ぎ木してゆくか」

行為は人と現実の空間とをつなぐ。行為によって人の内面は場所や物に影響を与えてゆく。つまり言語化できない感情や理性的な意図といった内面が出力された結果として行為は存在している、それによって様々なものがつながれてゆく。

通常、人の認識は1つ先の目的のために行為する。[原因・行為・結果]という1セットの括りでもたらえ行動する。しかし、実はそれは他者の心象や外界に影響を与え、次のフェーズの要因になっている。本当はもっといろんなことはつながっていると思う。

アラン=カブローのハプニングや具体美術協会のアクションに代表されるように「行為」は美術の制度にも大きく関係してきた。しかしそれらは美術の枠組みに対するアプローチであり、日常の行為と同様に1つ先の結果に向けられた意識でなされている。僕自身の興味は、時間的な持続性をもって行為を再考することである。社会における行為の手前に存在する「理由」や「意図」を現実のものや場所と結びつけることによって、社会の中で芸術の使い方を捉え直すこと。更にそれが次へとつながってゆくことを作品化したいと思っている。

本作品は2016年度に大阪府立江之子島文化芸術創造センターの企画、enoco[study#4]の一環として行ったWS「顔のこうかん 役割のこうかん」を発展させて制作しました。ある母娘が立場を交換し、お互いの人形を操り相手の役を演じている状況を、映像を用いて作品化します。

「演じる」という行為の対象が親子という関係であった場合、自分と似て非なるものが照射されるのではないか、というのが本作の意図です。なぜなら親子は遺伝子という科学的な結びつきを持つだけでなく、その関係の中で子供は言語や規範を知り、自己を形成してゆくからです。家族という最小単位であり最初の社会の構造を「演じる」という行為を通し再考することが目的です。



《感情的分岐点》2017



《思想付き通路》2018



作家プロフィール

### 冬木 遼太郎 [FUYUKI Ryotaro]

1984年富山県生まれ。2008年京都造形芸術大学情報デザイン学科先端アートコース卒業、2010年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了後、京都・大阪を拠点に活動している。2017年 吉野石膏美術振興財団在外研修員としてニューヨークに滞在。(公益財団法人吉野美術振興財団) 主な個展に“PRESIDENT”(2013年,ARTZONE,京都)、“Ryotaro Fuyuki solo exhibition”(2016年,サイギャラリー,大阪)、“A NEGATIVE EVAGINATE”(2017年,大阪府立江之子島文化芸術創造センター,大阪)。その他グループ展として、“Making Sense Out of Nonsense”(2014年,京都芸術センター,京都)、“Winter 2017 Residency Exhibition”,2018年, NARS Foundation, ニューヨーク)、“どこでもグレンビ2018”(2018年,広島市現代美術館,広島)など多数。 [www.ryotarofuyuki.com](http://www.ryotarofuyuki.com)

京都市立芸術大学移転整備プレ事業  
《教室のフィロソフィー》第7弾  
冬木遼太郎 個展「内的相互」展覧会情報

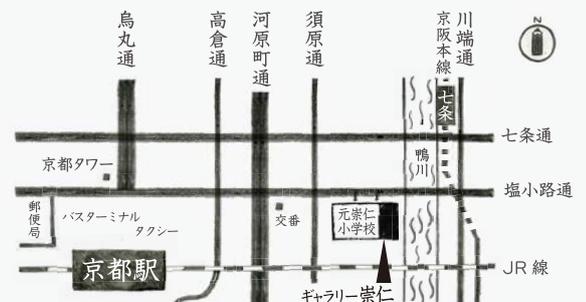


[http://www.kcuu.ac.jp/event/20190112\\_fuyuki/](http://www.kcuu.ac.jp/event/20190112_fuyuki/)

小学校の職員室であった空間が  
本学学生の設計・デザインにより  
ギャラリーに生まれ変わりました。



京都市立芸術大学では移転整備プレ事業として、この新たな展示空間「ギャラリー崇仁」において若手作家を支援するためのプロジェクト「教室のフィロソフィー」を実施しています。このプロジェクトでは、本学を卒業、あるいは大学院を修了した若手作家を、小学校解体までの2年間、連続して紹介していきます。絵画・彫刻・デザイン・工芸等様々な専攻で学び、新たな表現を生み出そうと苦闘している作家たちが生み出した作品群からは、現代の新しいアートの息吹を感じていただけることと思います。



ギャラリー 崇仁 元崇仁小学校内 京都市下京区川端町16

JR 京都駅中央口より徒歩 9 分  
地下鉄烏丸線京都駅ポルタ A3 出口より徒歩 7 分  
京阪七条駅 1 番出口より徒歩 6 分  
※お車でのご来場はご遠慮ください。